

ごあいさつ

2007年になって、国内では3月の能登半島地震や7月の新潟県中越沖地震が立て続けに発生し被害をもたらしました。海外でも、3月のインドネシア・パダン近郊での地震、7月の南米ペルーでの地震、8月のスマトラ沖地震等の被害地震が発生しました。また、地球温暖化やその対策が指摘される中、異常気象や風水害による被害も生じ、自然の猛威のもと、いたましい災害が後を絶たない現状にあります。

一方、建設業界を巡る状況を見ると、公共工事の総合評価入札方式が進められる中、品質確保や工事の合理化を背景とした総合的な技術提案やコスト競争が継続するものと思われ、技術への期待がより一層高まるものと考えられます。

社会基盤や産業施設、住宅などの整備やその維持管理・更新を担うものとして、建設業には自然現象をはじめとするあらゆる災害から、これらの施設を守ることが社会的要求として求められています。わたしたち建設業にとっては、保有している技術や新しく開発した技術により、その期待にこたえていくことが責務であり、また十分に期待にこたえていけるものと確信しております。更に、総合評価入札方式においても、新たな技術開発を通じて技術力を強化し、総合的な技術提案を行うことで、工品質の確保・向上や工事費だけでなく施設のライフサイクルコストの低減が実現されると考えています。

当社は、明治16年(1883年)の飛島組創設から、創業者飛嶋文吉翁の『利他利己』というお客様第一の精神で、常に「お客様の満足」を目指しております。また、120余年で培った「技術」と「ものづくりへの気概」に裏付けられた『現場力』を礎として、「防災のトビシマ」、「建ててから始まる真のお付き合い」をスローガンに、よりお客様に近い新しい建設業の姿を実現すべく、努めております。

とびしま技報は、創刊以来第56号を重ね、これまで当社による研究開発の成果公表だけでなく、土木や建築の計画・調査・設計・施工および維持管理など多岐にわたる技術の一端を紹介させて頂いております。本紙第56号では、防災・環境・リニューアル・品質向上分野の技術である21編を掲載致しました。皆様におかれましては「とびしま技報」をご高覧いただき、ご意見やご批判を賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりますが、これまで同様に、トビシマへのご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

2007年9月

技術研究所長

三 輪 滋